

## 議事録（要旨）

委員： 子どもたちは、館の利用ルールの範囲内できちんと過ごせているでしょうか。

市： 子どもたちは、去年までは児童館に来て、ものの5分くらいで帰っていた。遊び自体を知らないんだなと感じていた。なので、児童館にあるいろいろな遊びなど、職員側でも考えないといけないなと思っていた。去年の夏休みは、こま遊びを教えると、かなり子どもたちは遊んでいた。児童館祭りのときもやってくれていた。一度職員がやり方を教えると、他の子どもに教えてくれていた。多くの子どもたちが、こまの習得はしてくれていた。けん玉も持ち方やコツを教えてやると、出来るようになった子どもが他の子どもに教えていた。それと、マンカラ遊びというのを去年から児童館遊びに取り入れているのですが、それもかなりの子どもたちが習得しました。前年度の2月頃に「マンカラ大会」というのをしまして、優勝者には賞状を渡した。こま遊びも少し高度なんですけど、技も習得してみんなの前で披露したりしている。その結果が3月、4月の来館者の実績に出ているかなと思います。

委員： 利用していてすごく助かっています。この前、本棚をみていると、育児書のような本が1冊あり、それを読んでいて自分の子育てを見直すきっかけになったので、ふらっと保護者さんが読んで力になるような本があるといいなと思います。

委員： 児童館まつりのときに、子どもたちがわっと来るなと思いました。私が名前を覚えていたような子も来ていたんです。「あ、来てたね」というと「来るさい！」みたいなそういう反応でしたので、どっちかというと家庭に居場所を求めるとも別のところという子どもたちが児童館まつりに来ていたというような実感を持ちました。そういう子どもたちの居場所になっているなと思いました。行事のとき、それから先ほど、館長さんが一般の子どもたちも昔遊びをできるようなコーナーができたので来るようになったとおっしゃっていましたが、小学生までの子どもたちは良かったかなと思います。あと、中学生、高校生の子どもたちにも居場所をというのがあります。中学生が増加傾向にあるという先ほど館長さんからの説明がありました。それは素直に嬉しいことだなと思いました。中学生、高校生が、ちょっとこのところ別の会議で非行の数が増えたということが警察の方から説明がございました。中学生、高校生の子たちにとっての健全な場所での第3の居場所を見つけるのは難しいのかなと思う。ここに行ったら誰かがいて話せて、一緒に何かができるという場所があるのかなと思う。それが児童館であればいいかなと思いますけれども、中学、高校となると年齢の幅があるのでちょっと難しいのかなとも思う。やはり健全な、大きい子どもたちにとっての第3の居場所というのを提供できればいいなと思います。

市： 中学生は自分の話を聞いて欲しい子が多い。自分の話を聞いてもらえる場所がない。話を聞きながらその子が何に興味があるのかがわかってくる。なにか聞いて欲しい子が多い。自分を受け入れてくれる大人が一人でもいたらその子は救われると思いました。それが児童館であっても近所のおばさんでもだれか1人がいれば。

委員： 中学生、高校生になっても自分を受け止めてくれる存在っていう人が必要なんです。

それが本当は家族であれば一番良いんですけど、なかなかそういう社会の状況でもない子もいるから、そういう人、存在がいる場所というのが児童館であればなお、いいのかなと思います。